

佳作

空に向かってジャンプ

鹿児島県 始良市立重富小学校三年 平山 楓馬

「ド、ドスッ」。これは、ついこの前まで、ぼくが二重とびをしている時の音でした。

ぼくは、運動がにが手です。みんなと同じようにできなかった時は、くやしくて、なきそうになります。そんな時は、目からなみだがおちてこないように、口にぐっと力を入れて、いきを止めてがまんします。

ぼくは、「りよう育」に行っています。りよう育では、自分のにが手なことができるようにれん習します。ある日、

「ふう馬さんは、できるようになりたいことがあるかな。」

とひろし先生から聞かれ、

「なわとびが上ずにできるようになりたい。」と答えていました。

がんばってみよう」と思いました。

夏休みが近づいたころ、学校で朝の体力作りの時間に二重とびをしました。となりにいた友だちが、じょうずに二重とびをしました。「じょうずにとべてすごいな」と思いました。ぼくもとんでみました。今までぼくのなわは、「ド、ドスッ」という音でしたが、「シュツ、シュシュツ」と、はやくてかるい音に変化していることに気づきました。すると、自こさい高の十三回もとべていました。とび上がってよろこびました。見ていた友だちが、

「ふう馬さん、すごいね。」

と言ってくれて、とてもうれしかったです。

「運動がにが手でも、こつこつとがんばればできるようになるんだ」と自しんがつかしました。そして、できるようになるとがんばった自分にも感心しました。これからもできることをふやしていきたいと思いました。

学校では、体育の授業のさいしよに、かならずなわとびをします。同じクラスには、一分間に前とびで百五十回もとべる友だちがいます。「たくさんとべて、かっこいいな」とあこがれてしまっています。ぼくはジャンプするタイミングが分からなくて、すぐになわが足にひっかかってしまいます。なわばかり見ていると、今どは、手や足の動きがおそくなってしまいうまくとべません。

そこで、ひろし先生と、作せんを考えました。まず、なわを使わずにジャンプしながら手をたたくれん習をしました。ひろし先生の手びょうしに合わせ、ゆかにはったビニルテープをふまないようにとぶこともしました。すると、いつの間になわに引っかからずにとべる回数が増えていきました。自しんがついたので、つぎは「二重とびもうまくなりたい」という新しい目ひょうができました。

今まで二重とびは、どんなにがんばっても二回しかとべませんでした。それでも、りよう育や家で、あきらめずにれん習をつづけました。ひろし先生が、「りよう育でやっているように、学校でもやってみて。」

と言ってくれて、「よし、学校でもゆう気を出して